

2014年度第1四半期決算説明会



2014年7月31日

1. 2014年度第1四半期決算実績概要

2014年度1Q実績(2014.4.1 - 2014.6.30) <対前年度実績>

ポイント 増収増益

(+、-、+、▲は利益に対する影響を示す、億円)

売上高	+604	+	都市ガス売上増	(+453:数量差+186、単価差+266(スライド差+295、料金改定▲44等))	スライドタイムラグ差 +141
		+	電力売上増	(+127:単価差+53、数量差+74)	
		+	海外売上増	(+39:プルード収益増、バーネット新規連結他)	
営業費用	▲404	-	都市ガス原材料費増	(▲340:数量差▲172、単価差▲168(為替▲63、油価+13、価格改定他))	
		-	電力燃料費増	(▲81:単価差▲30、数量差▲51)	
営業利益	+201	+	都市ガス利益増	(+118:ガス粗利+112(数量差+14(気温影響▲9)、単価差+98(スライド差+141、料金改定▲44等))	
		+	電力利益増	(+47:電力粗利+47(単価差+23、数量差+23))	
		+	海外利益増	(+17:プルード利益増等)	
特別損益	+49	+	固定資産(土地)売却益+54等		

(単位: 億円)

	2014年度1Q	2013年度1Q	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	3,657	3,387	+270	+8.0%
売上高	5,340	4,736	+604	+12.8%
営業費用	4,740	4,336	+404	+9.3%
営業利益	600	399	+201	+50.3%
経常利益…①	596	396	+200	+50.5%
当期純利益	447	260	+187	+71.8%

気温影響…②	▲38	▲29	▲9	—
スライドタイムラグ…③	111	▲30	+141	—
年金数理差異償却額…④	7	▲5	+12	—
補正経常利益①-(②+③+④)	516	460	+56※	+12.2%
補正当期純利益	391	302	+89	+29.5%

※+56:ガス販売量増+23(気温影響▲9控除後)、料金改定▲44、電力+47、海外+17、その他のセグメント利益他+13

(億円)

経済フレーム	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)	2014年度1Q	2013年度1Q	増減	%
14年度1Q	102.17	109.52	17.8	388	803	▲415	▲51.6%
13年度1Q	98.78<+3.39>	107.75<+1.77>	17.5<+0.3>				

※前年度バーネット430の剥落

年金運用実績(2014年度1Q末現在):1.62%(年間期待運用収益率2.0%)

連結ガス販売量実績

前年度実績 → 今年度実績

+270百万m³ (+8.0%)の増加
 [うち気温影響▲8百万m³, ▲0.2%の減少]

■ **家庭用** ▲2百万m³ (▲0.3%)

- 気温要因 ▲13百万m³
- 日数影響 ▲6百万m³
- お客さま件数 +12百万m³
- その他 +5百万m³

■ **業務用** ▲5百万m³ (▲0.9%)

- 気温要因 +7百万m³
- 日数影響 ▲6百万m³
- お客さま件数 ▲0百万m³
- その他 ▲6百万m³

■ **工業用** +273百万m³ (+18.4%)

- 一般工業用: +10百万m³
 うち鹿島地区増 +22百万m³
- 発電専用: +262百万m³
 うち鹿島地区増 +284百万m³

■ **卸** +5百万m³ (+1.0%)

- 気温要因 ▲1百万m³
- その他 +6百万m³

卸供給事業者需要増等

当初計画 → 今年度実績

▲37百万m³ (▲1.0%)の減少
 [うち気温影響▲58百万m³, ▲1.6%の減少]

■ **家庭用** ▲45百万m³ (▲5.1%)

- 気温要因 ▲52百万m³
- 日数影響 ▲2百万m³
- お客さま件数 +2百万m³
- その他 +7百万m³

■ **業務用** ▲11百万m³ (▲1.8%)

- 気温要因 ▲2百万m³
- 日数影響 0百万m³
- お客さま件数 ▲3百万m³
- その他 ▲6百万m³

■ **工業用** +19百万m³ (+1.1%)

- 一般工業用: ▲36百万m³
 うち鹿島地区以外減 ▲39百万m³
- 発電専用: +55百万m³
 うち鹿島地区増 +55百万m³

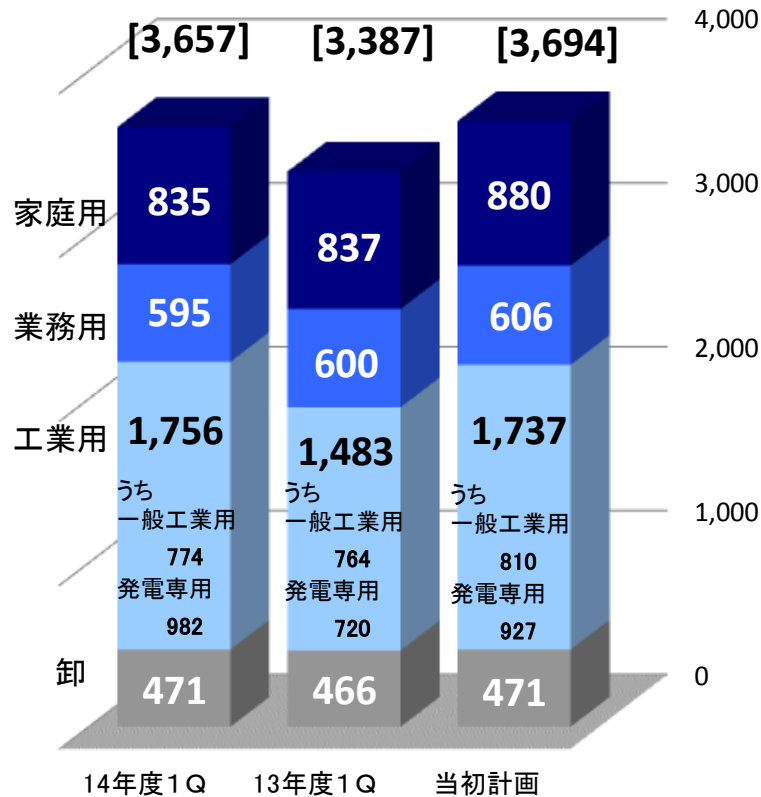
■ **卸** +0百万m³ (+0.0%)

- 気温要因 ▲4百万m³
- その他 +4百万m³

卸供給事業者需要増等

ガス販売量:

(百万m³以下四捨五入)



	14年度1Q	13年度1Q	増減
LNG液販売量(千t)	198	211	▲13
平均気温(°C)	17.8	17.5	+0.3

お客さま件数(万件)

	14年度1Q	13年度1Q	増減
	1,113.7	1,099.5	+14.2(+1.3%)

2014年度1Q実績

●トーリングによるガス使用量込

百万m³, 45MJ/m³

	14年度 1Q	13年度 1Q	増減	当初計画	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	3,657	3,387	+270 +8.0%	3,694	▲37 ▲1.0%
トーリングによる ガス自家使用量	414	324	+90 +27.8%	413	+1 +0.2%
合計	4,071	3,711	+360 +9.7%	4,107	▲36 ▲0.9%

●工業用ガス販売量内訳 (単位:百万m³)

	鹿島地区	その他地区	合計
発電専用	342	640	982
(対13年度1Q)	+284(+491.2%)	▲22(▲3.3%)	+262(+36.5%)
(対当初計画)	+55(+19.4%)	▲1(▲0.0%)	+55(+6.0%)
一般工業用	52	722	774
(対13年度1Q)	+22(+70.0%)	▲11(▲1.6%)	+10(+1.3%)
(対当初計画)	+3(+5.2%)	▲39(▲5.1%)	▲36(▲4.5%)
合計	394	1,362	1,756
(対13年度1Q)	+306(+345.9%)	▲33(▲2.4%)	+273(+18.4%)
(対当初計画)	+58(+17.3%)	▲39(▲2.8%)	+19(+1.1%)

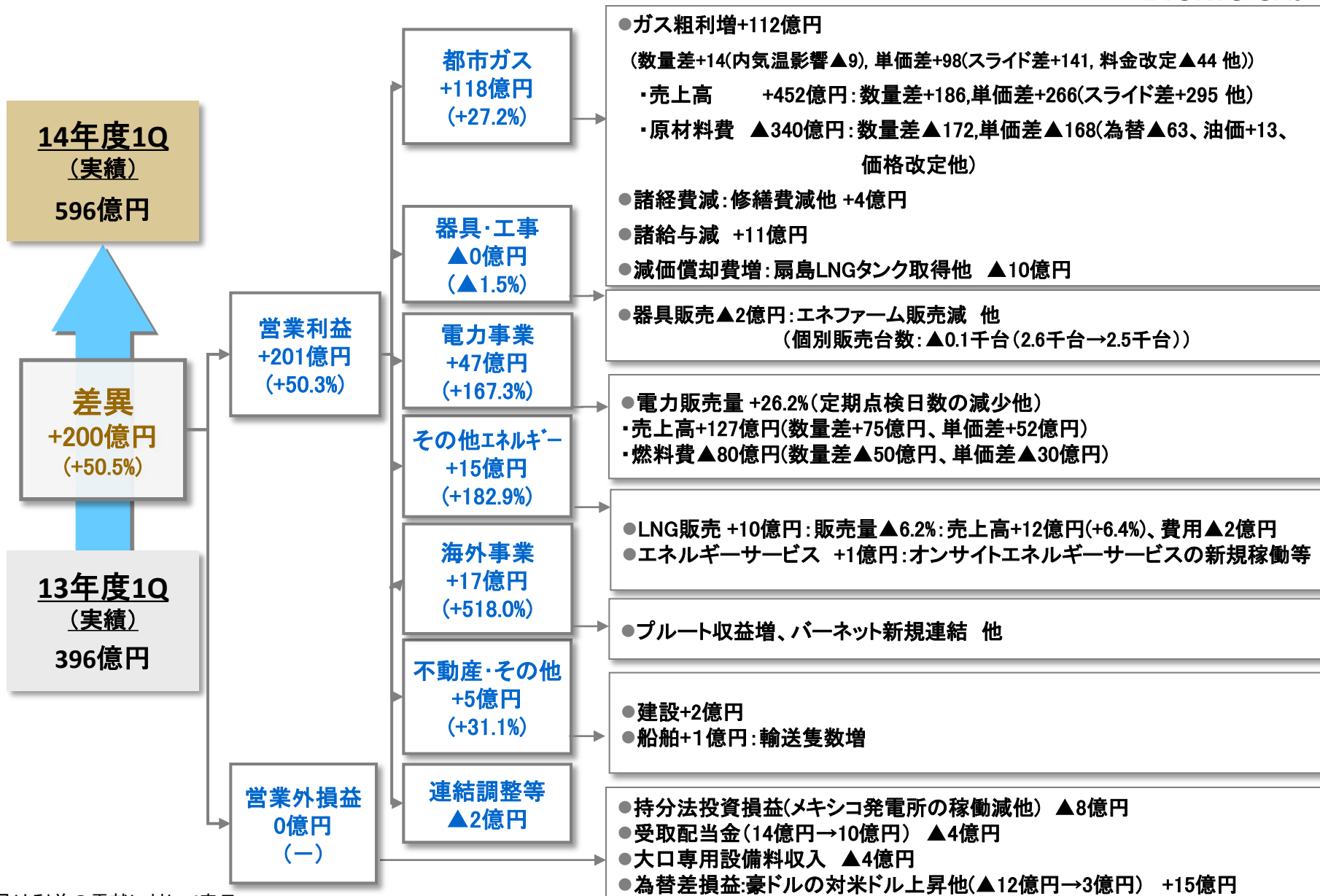
2014年度1Q実績 セグメント別売上高・営業損益<対前年度実績>

(単位:億円)

	売上高				セグメント利益			
	2014年度 1Q	2013年度 1Q	増減	%	2014年度 1Q	2013年度 1Q	増減	%
都市ガス	3,898	3,445	453	13.2%	553	435	118	27.2%
器具及びガス工事	403	423	▲20	▲4.7%	6	6	▲0	▲1.5%
その他エネルギー	975	794	181	22.7%	97	35	62	170.7%
(電力事業)	412	285	127	44.7%	74	27	47	167.3%
不動産	65	73	▲8	▲10.3%	16	16	0	4.1%
その他	460	405	55	13.4%	28	6	22	373.6%
(海外事業)	76	37	39	101.1%	20	3	17	518.0%
調整額	▲463	▲406	▲57	—	▲102	▲100	▲2	—
連結	5,340	4,736	604	12.8%	600	399	201	50.3%

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」、「LNG販売」を含みます。
 - ・ 「その他」には、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含みます。
 - ・ 営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 - ・ ()内は内数表示

2014年度1Q実績 経常利益分析 <対前年度実績>



※符号は利益の貢献に対して表示

2. 2014年度 通期見通し

2014年度通期見通し (2014.4.1 - 2015.3.31) <対当初計画(4月28日発表)>

通期見通しのポイント 減収増益

(+ - , +/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲100	:	-	都市ガス売上減	(▲77:数量差+3,単価差▲81(スライド差▲81))		
			-	電力売上減	(▲12:数量差+3,単価差▲15)		
			-	LNG販売売上減	(▲17:数量差▲9,単価差▲8)		
営業費用	+130	:	+	都市ガス原材料費減	(+94 :数量差▲34、単価差+128(為替+68、油価+9他))		
			+	電力燃料費減	(+14 :数量差▲2、単価差+16)		
			+	LNG販売原料費減	(+18 :数量差+9、単価差+9)		
営業利益	+30	:	+	都市ガス利益増	(+17 :ガス粗利+16(数量差▲31(内気温影響▲38)、単価差+47(スライド差+47))		
			+	海外利益増	(+13 :プルート利益増、QCLNG他)		
特別損益	+8	:	+	用地売却+13、有価証券評価損▲5			

スライドタイムラグ差 +47

(単位:億円)

	今回見通し	当初計画(4/28)	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	15,326	15,266	+60	+0.4%	14,735	+591	+4.0%
売上高	22,880	22,980	▲100	▲0.4%	21,121	+1,759	+8.3%
営業費用	21,550	21,680	▲130	▲0.6%	19,460	+2,090	+10.7%
営業利益	1,330	1,300	+30	+2.3%	1,660	▲330	▲19.9%
経常利益...①	1,260	1,230	+30	+2.4%	1,596	▲336	▲21.1%
当期純利益	970	940	+30	+3.2%	1,084	▲114	▲10.6%
気温影響...②	▲38	0	▲38	—	▲25	▲13	—
スライドタイムラグ...③	35	▲12	+47	—	164	▲129	—
年金数理差異償却額...④	30	30	0	—	▲22	+52	—
補正経常利益...①—(②+③+④)	1,233	1,212	+21*	+1.7%	1,479	▲246	▲16.6%
補正当期純利益	951	927	+24	+2.6%	1,007	▲56	▲5.6%

※+21:ガス販売量増+7(気温影響▲38控除後)、海外+13、その他のセグメント利益増他+1

年間期待運用収益率:2%

経済フレーム(通年)	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
今回見通し	104.29	109.88	16.9
前回見通し	105.00(▲0.71)	110.00(▲0.12)	16.6(+0.3)
2013年度	100.17<+4.12>	110.00<▲0.12>	17.0<▲0.1>

年金	運用利回※コスト控除後	割引率	期末資産(億円)
2013年度	1.61%	1.5%	2,730
2012年度	6.10%	1.4%	2,760

(単位:億円)

設備投資	今回見通し	当初計画	増減	%
2014年度	2,370	2,370	0	0.0%

()内対前回増減、<>内対前年度増減

連結ガス販売量見通し

当初計画 → 今回見通し

+60百万m³ (+0.4%)の増加
 [うち気温影響▲58百万m³, ▲0.4%の減少]

■ 家庭用	▲40百万m ³ (▲1.2%)
● 気温要因	▲52百万m ³
● 日数影響	▲2百万m ³
● お客さま件数	+6百万m ³
● その他	+7百万m ³

■ 業務用	▲20百万m ³ (▲0.7%)
● 気温要因	▲2百万m ³
● 日数影響	▲0百万m ³
● お客さま件数	+9百万m ³
● その他	▲27百万m ³

■ 工業用	+120百万m ³ (+1.7%)
● 一般工業用:	▲152百万m ³
うち鹿島地区以外減	▲155百万m ³
● 発電専用:	+272百万m ³
うち鹿島地区以外増分	+172百万m ³

■ 卸	▲1百万m ³ (▲0.0%)
● 気温要因	▲4百万m ³
● その他	+3百万m ³
卸供給事業者需要増等	

前年度実績 → 今回見通し

+591百万m³ (+4.0%)の増加
 [うち気温影響▲45百万m³, ▲0.3%の減少]

■ 家庭用	+5百万m ³ (+0.1%)
● 気温要因	▲4百万m ³
● 日数影響	▲12百万m ³
● お客さま件数	+48百万m ³
● その他	▲27百万m ³

■ 業務用	▲70百万m ³ (▲2.5%)
● 気温要因	▲41百万m ³
● 日数影響	▲12百万m ³
● お客さま件数	0百万m ³
● その他	▲17百万m ³

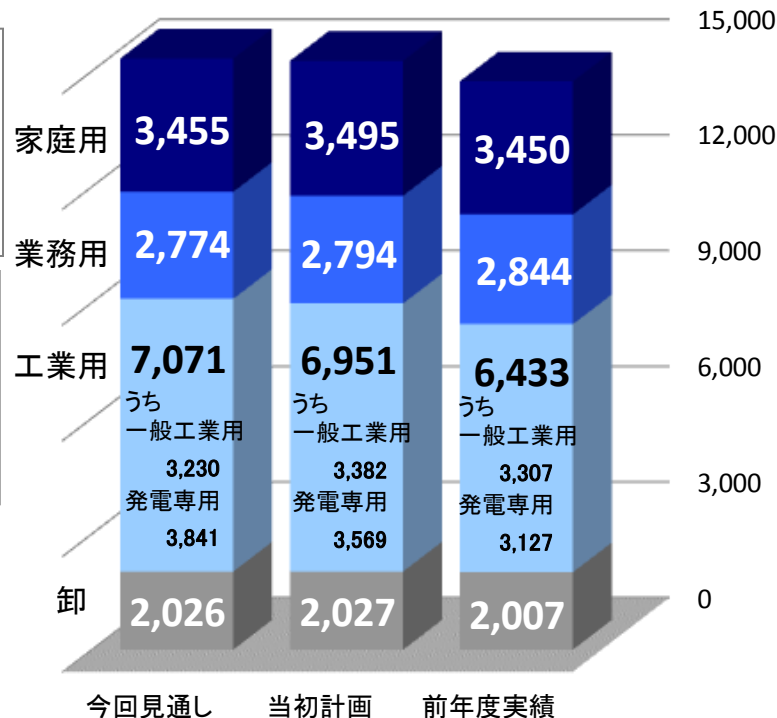
■ 工業用	+638百万m ³ (+9.9%)
● 一般工業用:	▲77百万m ³
うち鹿島地区以外減	▲100百万m ³
(前年度鉄鋼駆け込み需要の剥落)	
● 発電専用:	+714百万m ³
うち鹿島地区増分	+819百万m ³

■ 卸	+19百万m ³ (+0.9%)
● 気温要因	▲0百万m ³
● その他	+19百万m ³
卸供給事業者需要増等	

ガス販売量:

(百万m³以下四捨五入)

[15,326] [15,266] [14,735]



	今回見通し	当初計画	増減
LNG液販売量(千t)	955	965	▲10
平均気温(℃)	16.9	16.6	+0.3

お客さま件数(万件)

今回見通し	当初計画	増減
1,123.8	1,123.7	+0.1(+0.0%)

2014年度見通し

●トーリングによるガス使用量込

百万m³, 45MJ/m³

	今回 見通し	当初計画	増減	前年度 実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	15,326	15,266	+60 +0.4%	14,735	+591 +4.0%
トーリングによる ガス自家使用量	1,664	1,666	▲2 ▲0.1%	1,510	+154 +10.2%
合計	16,990	16,932	+58 +0.3%	16,245	+745 +4.6%

2020ビジョンベース 18,184 18,138 +46 17,225 +959

●工業用ガス販売量内訳 (単位:百万m³)

	鹿島地区	その他地区	合計
発電専用	1,400	2,441	3,841
(対当初計画)	+101(+7.7%)	+172(+7.6%)	+272(+7.6%)
(対前年実績)	+819(+140.9%)	▲105(▲4.1%)	+714(+22.8%)
一般工業用	208	3,022	3,230
(対当初計画)	+3(+1.2%)	▲155(▲4.9%)	▲152(▲4.5%)
(対前年実績)	+24(+12.8%)	▲100(▲3.2%)	▲77(▲2.3%)
合計	1,608	5,464	7,071
(対前回見通し)	+103(+6.8%)	+18(+0.3%)	+120(+1.7%)
(対前年実績)	+843(+110.0%)	▲204(▲3.6%)	+638(+9.9%)

2014年度見通し セグメント別売上高・営業損益 <対当初計画(4月28日発表)>

(単位:億円)

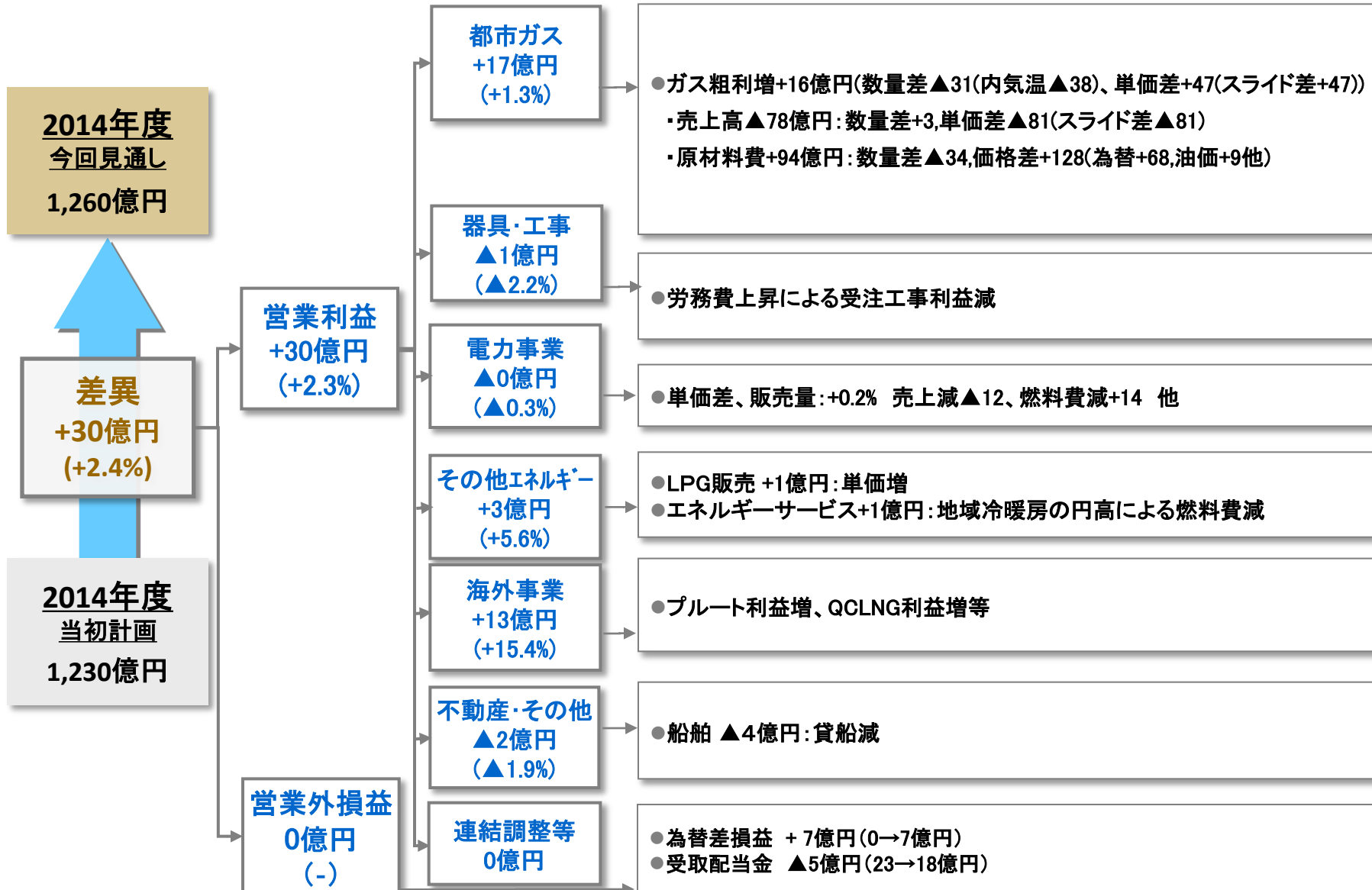
	売上高				セグメント利益			
	今回見通し	当初計画	増減	%	今回見通し	当初計画	増減	%
都市ガス	16,259	16,336	▲77	▲0.5%	1,288	1,271	+17	+1.3%
器具及びガス工事	2,099	2,100	▲1	▲0.0%	44	45	▲1	▲2.2%
その他エネルギー	4,146	4,170	▲24	▲0.6%	224	221	+3	+1.4%
(電力事業)	1,636	1,648	▲12	▲0.7%	159	159	▲0	▲0.3%
不動産	241	241	0	0.0%	39	38	+1	+2.6%
その他	2,093	2,102	▲9	▲0.4%	158	148	+10	+6.8%
(海外事業)	348	345	+3	+0.8%	96	83	+13	+15.4%
調整額	▲1,958	▲1,969	11	—	▲423	▲423	0	—
連結	22,880	22,980	▲100	▲0.4%	1,330	1,300	+30	+2.3%

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」、「LNG販売」を含みます。
 - ・ 「その他」には、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含みます。
 - ・ 営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 - ・ ()内は内数表示

2014年度見通し 経常利益分析

〈対当初計画(4月28日発表)〉

(単位: 億円)



※符号は利益の貢献に対して表示

2014年度見通し セグメント別売上高・営業損益 <対前年度実績>

(単位:億円)

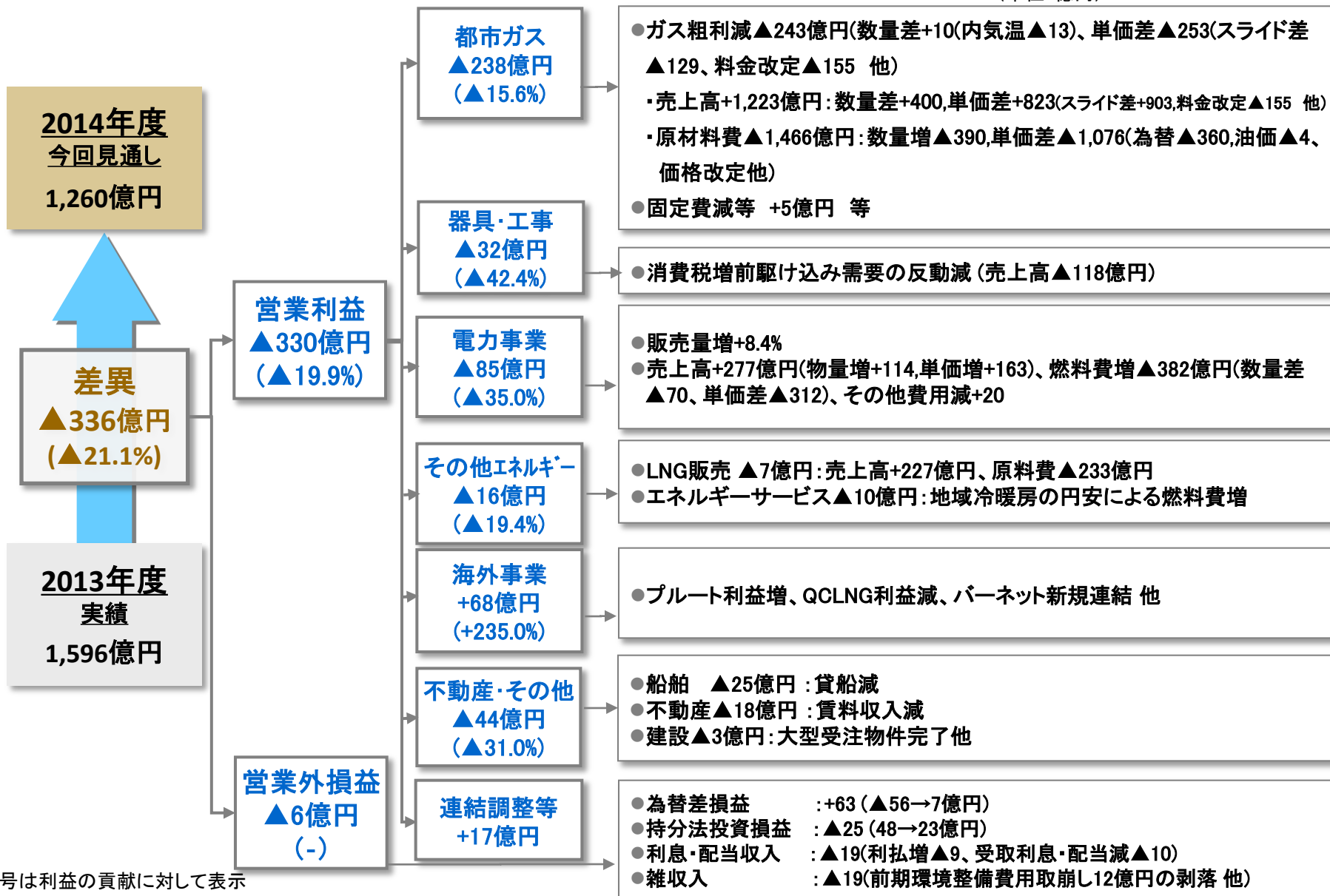
	売上高				セグメント利益			
	今回見通し	前年度実績	増減	%	今回見通し	前年度実績	増減	%
都市ガス	16,259	15,051	+1,208	+8.0%	1,288	1,526	▲238	▲15.6%
器具及びガス工事	2,099	2,217	▲118	▲5.3%	44	76	▲32	▲42.4%
その他エネルギー	4,146	3,575	+571	+15.9%	224	325	▲101	▲31.1%
(電力事業)	1,636	1,359	+277	+20.4%	159	244	▲85	▲35.0%
不動産	241	283	▲42	▲14.9%	39	57	▲18	▲31.6%
その他	2,093	1,993	+100	+5.0%	158	116	+42	+35.1%
(海外事業)	348	221	+127	+57.5%	96	28	+68	+235.0%
調整額	▲1,958	▲1,998	+40	—	▲423	▲440	+17	—
連結	22,880	21,121	+1,759	+8.3%	1,330	1,660	▲330	▲19.9%

- 注記:
- ・ セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 - ・ 「その他エネルギー」には、「エネルギーサービス」、「液化石油ガス」、「電力」、「産業ガス」、「LNG販売」を含みます。
 - ・ 「その他」には、建設事業、情報処理サービス事業、船舶事業、クレジット・リース事業、海外事業等を含みます。
 - ・ 営業損益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。
 - ・ ()内は内数表示

2014年度見通し 経常利益分析

〈対前年度実績〉

(単位: 億円)



※符号は利益の貢献に対して表示

主要計数表(連結)

(単位: 億円)

	2014年度 今回見通し	2014年度 当初見通し	2013年度 実績
総資産 (a)	22,320	22,260	21,768
自己資本 (b)	10,360	10,300	10,117
自己資本比率 (b)/(a)	46.4%	46.3%	46.5%
有利子負債 (c)	7,710	7,730	7,138
D/E レシオ (c)/(b)	0.74	0.75	0.71
当期純利益 (d)	970	940	1,084
減価償却 (e)	1,420	1,420	1,403
営業キャッシュフロー (d) + (e)	2,390	2,360	2,488
設備投資 (Capex)	2,370	2,370	2,480
ROA: (d) / (a)	4.4%	4.3%	5.2%
ROE: (d) / (b)	9.5%	9.2%	11.2%
TEP	244	233	507
WACC	3.5%	3.6%	3.2%*
総分配性向	60%程度予定	60%程度予定	60.0%

注: 自己資本 = 純資産 - 少数株主持分
 ROA = 純利益 / 総資産 (期首・期末平均)
 ROE = 純利益 / 自己資本 (期首・期末平均)
 BS関連数値は各期末時点の数値
 営業キャッシュフロー = 純利益 + 減価償却 (長期前払費用償却含む)
 総分配性向 = [N年度の配当 + (N+1)年度の自社株取得] / N年度の連結純利益

* 発行済株式総数: 2,446,778,295株(2014年7月31日現在)

TEP(Tokyo Gas Economic Profit)について
 TEP=NOPAT-資本コスト(投下資本×WACC)
 WACC算定諸元(2014年度見通し)

- ・有利子負債コスト 実績金利1.1%(税引後)
- ・株主資本コスト率
 - ・リスクフリーレート 10年国債利回 0.8%
 - ・リスクプレミアム 5.5% β 値 0.75(※2013年度までリスクプレミアム4%)
 - ・資本金=時価総額

3. 2014年度 上期見通し

2014年度上期見通し (2014.4.1 - 2014.9.30) <対当初計画(4月28日発表)>

上期見通しのポイント 減収増益

(+ - , +/-▲は利益に対する影響を示す, 億円)

売上高	▲100	-	都市ガス売上減	(▲79:数量差▲30、単価差▲49(スライド差▲49))	- - - ↓
		-	LNG販売売上減	(▲10:数量差他)	
		-	電力売上減	(▲6:単価差他)	
営業費用	+120	+	都市ガス原材料費減	(+89:数量差▲18、単価差+107(為替+67、油価+8他))	- - - ↓
		+	LNG販売費用減	(+13:数量差、単価差)	
		+	電力費用減	(+10:単価差他)	
営業利益	+20	+	都市ガス利益増	(ガス粗利+10(内数量差▲48(内気温影響▲38)、単価差+58(スライド差+58))	
		+	LNG販売利益増	(+4:単価差他)	
		+	電力利益増	(+5:単価差他)	

スライドタイムラグ差 +58

(単位:億円)

	今回見通し	当初計画(4/28)	増減	%	前年度実績	増減	%
ガス販売量(百万m ³ , 45MJ)	7,136	7,118	+18	+0.3%	6,673	+463	+6.9%
売上高	10,330	10,430	▲100	▲1.0%	9,335	+995	+10.7%
営業費用	9,700	9,820	▲120	▲1.2%	8,650	+1,050	+12.1%
営業利益	630	610	+20	+3.3%	685	▲55	▲8.0%
経常利益...①	620	600	+20	+3.3%	649	▲29	▲4.6%
当期純利益	530	500	+30	+6.0%	427	+103	+23.9%
気温影響...②	▲38	0	▲38	—	▲42	+4	—
スライドタイムラグ...③	105	47	+58	—	109	▲4	—
年金数理差異償却額...④	15	15	0	—	▲11	+26	—
補正経常利益...①—(②+③+④)	538	538	0*	0.0%	593	▲55	▲9.3%
補正当期純利益	473	457	+16	+3.5%	390	+83	+21.3%

※0:ガス販売量▲10(気温影響38控除後)、電力+5、その他セグメント利益他+5

(単位:億円)

経済フレーム (上期平均)	為替レート(¥/\$)	原油価格(\$/bbl)	平均気温(°C)
今回見通し	103.59	109.76	22.0
当初計画	105.00(▲1.41)	110.00(▲0.24)	21.4(+0.6)
2013年度	98.86<+4.73>	107.66<+2.10>	22.3<▲0.3>

設備投資	今回見通	当初計画	増減	%
2014年度上期	990	990	0	0.0%

()内対前回増減、<>内対前年度増減

連結ガス販売量上期見通し

当初計画 → 今回見通し

+18百万m³ (+0.3%)の増加
 [うち気温影響▲58百万m³, ▲0.8%の減少]

■ 家庭用	▲44百万m ³ (▲3.3%)
● 気温要因	▲52百万m ³
● 日数影響	▲2百万m ³
● お客さま件数	+ 2百万m ³
● その他	+ 7百万m ³

■ 業務用	▲13百万m ³ (▲1.0%)
● 気温要因	▲2百万m ³
● 日数影響	0百万m ³
● お客さま件数	+1百万m ³
● その他	▲12百万m ³

■ 工業用	+75百万m ³ (+2.1%)
● 一般工業用:	▲90百万m ³
うち鹿島地区以外減	▲93百万m ³
● 発電専用:	+165百万m ³
うち鹿島地区増	+101百万m ³

■ 卸	+0百万m ³ (+0.0%)
● 気温要因	▲4百万m ³
● その他	+4百万m ³
卸供給事業者需要増等	

前年度実績 → 今回見通し

+463百万m³ (+6.9%)の増加
 [うち気温影響▲15百万m³, ▲0.2%の減少]

■ 家庭用	+20百万m ³ (+1.6%)
● 気温要因	+6百万m ³
● 日数影響	▲6百万m ³
● お客さま件数	+19百万m ³
● その他	+2百万m ³

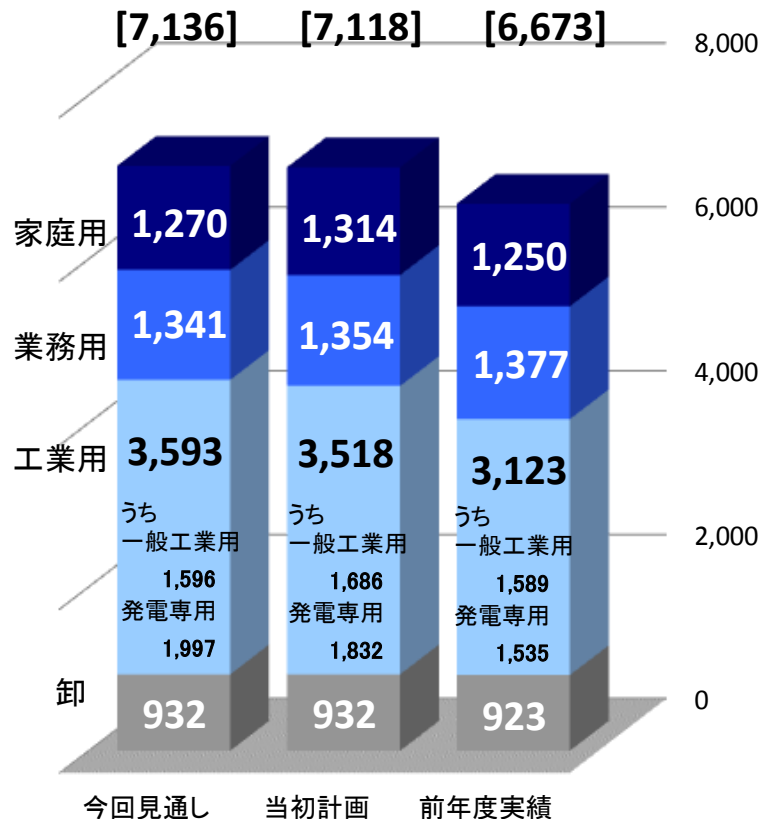
■ 業務用	▲36百万m ³ (▲2.6%)
● 気温要因	▲22百万m ³
● 日数影響	▲6百万m ³
● お客さま件数	0百万m ³
● その他	▲8百万m ³

■ 工業用	+470百万m ³ (+15.0%)
● 一般工業用:	+7百万m ³
うち鹿島地区増	+30百万m ³
● 発電専用:	+462百万m ³
うち鹿島地区増	+517百万m ³

■ 卸	+9百万m ³ (+1.0%)
● 気温要因	+2百万m ³
● その他	+7百万m ³
卸供給事業者需要増等	

ガス販売量:

(百万m³以下四捨五入)



	今回見通し	当初計画	増減
LNG液販売量(千t)	393	399	▲6
平均気温(°C)	22.0	21.4	+0.6

2014年度上期見通し

●トーリングによるガス使用量込

百万m³, 45MJ/m³

	今回見通し	当初計画	増減	前年度実績	増減
ガス販売量 (財務会計数値)	7,136	7,118	+18 +0.3%	6,673	+463 +6.9%
トーリングによる ガス自家使用量	845	847	▲2 ▲0.3%	743	+102 +13.6%
合計	7,981	7,965	+16 +0.2%	7,416	+565 +7.6%

●工業用ガス販売量内訳 (単位:百万m³)

	鹿島地区	その他地区	合計
発電専用	713	1,284	1,997
(対当初計画)	+101(+16.4%)	+65(+5.3%)	+165(+9.0%)
(対前年実績)	+517(+263.1%)	▲55(▲4.1%)	+462(+30.1%)
一般工業用	101	1,495	1,596
(対当初計画)	+3(+2.6%)	▲93(▲5.9%)	▲90(▲5.4%)
(対前年実績)	+30(+41.7%)	▲22(▲1.5%)	+7(+0.4%)
合計	814	2,779	3,593
(対当初計画)	+103(+14.5%)	▲28(▲1.0%)	+75(+2.1%)
(対前年実績)	+546(+204.2%)	▲77(▲2.7%)	+470(+15.0%)

4. 参考資料

原油価格JCCが \$1/bbl 上昇する場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲3	▲7	+11	+1
	第3四半期	—	▲4	▲10	▲14
	第4四半期	—	—	▲6	▲6
	通期	▲3	▲11	▲5	▲19

円ドルレートが ¥1/\$ 円安になる場合

(単位:億円)

		収支影響時期			
		第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
変動時期	第2四半期	▲11	+8	+3	0
	第3四半期	—	▲12	+14	+2
	第4四半期	—	—	▲17	▲17
	通期	▲11	▲4	0	▲15



＜見通しに関する注意事項＞

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、原油価格の動向、気温の変動、円ドルの為替レート変動、ならびに急速な技術革新と規制緩和の進展への東京ガスの対応等があります。

＜資料における計算方法＞

数値は切り捨て、四捨五入をしていますが、変化率は実数で計算しているため、表上での計算が一致しないことがあります。

TSE:9531